

## 江越未悠

所属大学：佐賀大学 芸術地域デザイン学部  
芸術地域デザイン学科 芸術表現コース  
県内インターンシップ先：シムアットデザインラボ  
留学先：オランダ アイントホーヘン  
留学期間：2020/2/1 ~ 2020/3/16  
受入機関名：Design Academy Eindhoven



### 活動概要と成果

人とモノをつなぐを留学テーマとして、デザインアカデミーへの交換留学とダッチデザインウィーク関連施設へのフィールドワークを行うため、2020年2月1日から2020年7月5日の半年間予定で留学をした。デザインアカデミーでは、オランダを代表するコンセプチュアルデザインのデザインプロセスを学ぶことで、背景のストーリーや強いこだわり表現した言葉で伝える力を身につけることが期待された。コロナウイルスの影響により、1か月半で帰国となってしまったが、成果としては、デザインコンセプトや理由付けにおいて、リサーチ手段や発想の展開の仕方を授業やクラスメイトの制作過程から学び、日本で行っていたものよりも納得させられるものを作ることができた。制作における、「なぜ」や「デザインが含む物語」を言語化する力が高まったように感じる。プレゼンテーションについてはまだまだ改善の余地があるが、よくはなった。学業以外の成長を感じた点としては、コンフォートゾーンを抜けるためのきっかけを作る努力をしたことと、将来また、海外でも活躍できる人材になるために、帰国後の英語学習をより強化して継続できていることだ。

### 日本発信プロジェクト活動概要と成果

○ 日本に興味を持つ人と出会い、繋がり続ける

ー 実行したこと

Facebook でランゲージエクスチェンジを募集し、日本に滞在したことある人や、日本に興味がある人とつながった。また、同じ専攻の Man and Identity の友人の一人に、日本の染織工房でインターンをしたいという子がいたので相談に乗り、自分の染色専攻の知識などを英語で共有した。

ー 成果・気づいたこと

私が日本で作った染色作品のポートフォリオを見せたとき、一番反応がよかったのは「Shibori」のはなしだった。私からすると、ヨーロッパのノッティングなどの技法に詳しくはないが、絞り技法が日本語のまま認知されていることに驚いた。また、友人

のインターン先の相談に乗っているとき、わたしは、伝統産業の現場で、英語を使っ  
てのコミュニケーションをとれる人がいるだろうかという心配が一番に思い浮かび、  
トビタテの人の中には「本気で学びたいならその子が日本語をすべき」という人がい  
たが、小さなきっかけや興味と現場を繋げることができるのを目指す価値はあると思  
った。

#### 留学中及び帰国後の活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと

まさにこれを学びに来たという満足感と充実感を感じていた矢先、帰国になってしまっ  
た経験。自宅でオンライン留学をしているとき、何度もなんでこんなことしているんだろ  
うとやめたくなる時もあったが、トビタテの応募のときにしっかり言語化した目的を最  
後まで意識することで、腐らずにやり遂げる力が身に付いた。また、クラスメイトや、自  
分自身の制作環境の違いからくるフラストレーションやネガティブな感情を観察して、  
つぎにどうするかを考える事ができた。日本とオランダで感じる新鮮さの違いから、「制  
作物として何が良い」のかわからなくなる時があり、その時には積極的にクラスメイトや  
先生に相談の機会を設けることで、外からの視点を取り入れることを努力した。

#### 事前・事後インターンシップの活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと

宮野河内地区振興会と「ふるさとデザインアカデミー」協働で食のモニターイベント「UP  
DINING 産島」のイベント運営補助を経験。このプロジェクトにかかわっている多くの  
方がそれぞれの準備をされていて、多くの人がかかわっているなという実感とともに、一  
人で全部できるようになろうとせずに、それぞれが協力できる強みの分野を集めること  
が効率的で、いろいろな人を巻き込むいい機会だと学んだ。日本の作り手 8 割使い手 2 割  
という言葉を基にした、地域の体験誘致に関するプロジェクト 80%プロジェクト。地域  
の産業や特性を生かした製品デザインとそれを買い地域に来て初めて体験して完成する  
というプロセスによって、デザインに関わるストーリーとその後の地域への好奇心や関  
連した魅力探しを実際に行動に移させることで、プロダクトとしてだけの魅力発信では  
なく将来への発展させることを学んだ。

#### トビタテで得た経験を踏まえ、今後どのように地域貢献をするか

まず、就職するまでの一年間を、アートで地域を盛り上げるための展示やイベントの企画  
をしたい。大学院に進む友人や、地域デザインコースの後輩とも協力しながら、オランダ  
で参加したデザインイベントのディスカッションやトークイベントを取り入れることで、  
分からないものを理解する機会を地域に持ち込みたい。  
コロナが落ち着いた後、佐賀からオランダに派遣される高校生の交流実習準備などで、オ  
ランダ人の友人などから協力を得て基本的な挨拶や文化について教える会をしたい。

### あなたにとっての留学の価値

- 自分に対する他人の評価がゼロから始まること。アイデンティティは周囲の環境から作られているので、自分だと思っていたものが実はそうではなかったことに気づいたり、何もわからない土地で他人に頼ることの心地よさを感じた。
- こんな生活もアリだなとおもえること。全く違う文化圏に住むことで、生活様式や習慣が違い、お店は早く閉まるし、日曜は午後から開くけれどもそれでもいいなとおもえたこと。
- 日本の天気の良いさに気づけたこと。日本は冬でもちゃんと晴れてくれる。小さなことだけど当たり前になっている日本の良いさに気づけたことは大きい。
- 一度きりの出会い。コロナの影響でタイミングがずれていたらと思うとき、それはあの時にしか出会えなかった人やその価値観についての出会いも逃すことなので、このような出会いを大切に交流を続けていきたいと考えている。